

刊夕 日十月八

常警每日新聞

定額 一月五拾圓 三月十五拾圓 半年三十圓 一年六十圓
廣告料 五拾圓以上 一頁一圓 五拾圓以上 一頁一圓
日曜祭日の日 休刊
発行所 常警毎日新聞社
電話 六二〇〇
印刷所 常警毎日印刷株式会社
電話 六二〇〇



盆踊考

生

此の点は我が國舞踊史發達史上閑却すべからざる事であると同時に、我が國舞踊の源流を、跳と踊との二つより據り來たれるを知るばかりではなく、後世之を以て成するをカナズルと云ひ、是にて成すをラドリと云つたのである。(註二)

之を以て之を論ずれば、天之細女命の場合に於て、「汗氣ニ伏シ、フミトノロカシ」とある以上、空箇の上に立ち、其を響かせるに是を以てなすは人間自然の所爲であり、吾人も無意識の中に行ふ、側近の行動である。又踊なる文字を分析するに、之を二分に分ち無位置を轉じて上下に配すれば、足前となり、足前たる字句を熟視するに、細女命の空箇に立つ姿を彷彿するあるものがあるであらう。筆者の潜越なる判断並に批判に對し世の識者間に御叱りを得る様な感じがしならないけれど、踊とは細女命の姿を像徴したるが如き文字に思われてならぬ所以である

註一 倭訓栞に據る

註二 中山太郎氏所論

「動物に扮する舞踊」より

△起原及び其發生に就て
1、歌垣

「哲澤風土記」に

旋伴郡波比具利岡、此國

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

井坂醫院

平町 田町
電話五五九番

西有數垣山、昔男女集登此上事爲歌垣、因以爲名とあり、攝津以外に「肥前風土記」出雲風土記、にも此れ類似したる記録を見受けられるのである。歌垣とは、上古時代に行はれた行事であつて、春花秋月の頃、都にしては市に田舎にては野山などに若き男女の打集ひ互に歌を唱和し、終日歌を交へ獨身の男

女の如きは此の際を以て其の配偶を定めたるものであつて、其の集合の謂は、櫻會、おづめ、歌垣などとし、て上古に遺された習俗である。(註一)

櫻歌會を催せしは、常陸口にて筑波、肥前にて杵島山、攝津口にては前記の「歌垣山」と稱する山さへ有り、春秋の二秀に分ちて行われたもの、如く考へられつば市の八十のちまたに立ちならし結びし紐を解かまくをしも(註二)の歌詞などの遺されしを

七夕祭飾附品

七夕祭材料紙格安勉強致します
五色染紙、金銀紙、色セロファン紙
色テープ、色艶紙、色バラピン紙
久壽玉用……色ラニス紙、櫻紙
和洋紙 坂本紙店
文具 坂本紙店
平町一丁目 電話十八番
セイラ一萬年筆 特約店

平町南町五一

根本産婦人科醫院

根本 莊次郎
根本 貞雄
電話三四番

石炭

阿部石炭店
電話三十七番

御日焼けの

御顔の御手當に就て
海水浴の御日焼け、殘暑の御日焼け等は、御顔の「美」を一層傷つけるもので御座いますから、其の際は必ず御手當が必要で御座います。私共の化粧院は御日焼けには御特のオゾン理容法による御手當を致しまして皆様が御満足のいく限りの御化粧に努めてをります。海水浴の御日焼け、或は殘暑の御日焼けの御手當には是非水野化粧院迄御寄立下さいませ。
昭和十一年八月

水野化粧院

美容 結髮
水野 冬子
電話六七八番
平町四軒町 水野商店
電話五二五番

北川外科

内臓外科 レントゲン科
醫學博士 北川芳夫
小林良次
電話四六四番

電燈、動力、新設増設及改修
ネオンサイン設計及取付
甲種、乙種、電話設備
工業特設電話設備
呼鈴及室内電話設備
專屬電工を置き材料の撰擇と親切をモットとして工事致します。何卒御引立の程御願ひ申し上げます
通信局 日東商會
平二・電話四二八番

ほねつき

大河内接骨院
平町才樋小路
電五八八

耳鼻咽喉科専門

病室完備 自炊便有
山内醫院
醫學士 山内亨 吉
平町(電話六九番)

凶作の心配

今年は解消

山の手方面の

水稻成育良好

入遠野上遠野方部稲作は補付當時の天候不順から凶作を豫想されてゐたがこの程郡農會で調査した結果生育順調で天候さへ續けば平年作を見越さるゝに至つた

全能力を

發揮して

浴客を輸送

昨九日の第二日曜は暫く振りの快晴で四倉行海水浴客は再びドツと平驛に殺到當日平驛は乗車二千七十七人降車二千八十四人と云ふ去る二日の第一日曜に次ぐ記録を出したので同驛は久し振りでガソリン車二臺連結した外列車にも増結して輸送の全能力を發揮した

例に依つて

黒字づくめ

七月中の平驛の七ける乗降人員数は乗車が四萬七千八百四十九人で昨年同期より六千六百三人の増降車は四萬六千九百八十二人で六千五百五人増、旅客賃金も二萬二千六百一圓十八錢で昨年より千二百八十九圓を増したが更ら貨物の發送高が七千三百九十

氏等の一行が視察に來郡の筈

飯米共同販賣

販賣利用組合は明十一日平農會倉庫で飯米共同販賣を行ふが本日正午迄の申込は五百四十六俵である

中小河川調査

夏井川、薪川、蛭田川、仁井田川各中小河川工事に關し縣土木課大井川技手が來郡八九の兩日小林半土木監督所長と共に調査した

刑務所を視察

司法省の中尾書記官長は既報の如く昨九日午後三時二十分着て來、平刑務所、自營會館月寮等を視察したが四倉町柏屋旅館に宿泊十日平發午前六時十五分で白河に向け出發した

一時暗礁に乘上た

鮫川江の復活工事

愈よ縣との諒解がついて

九月中に着工

去る昭和九年から五ヶ年繼續事業で工事着手後、同年後には上遠野村大字瀧字橋坊地内取入口から下流千四百八十米の同字地内縣道横斷地まで完成、同十年度に至つて縣當局と組合側の設計の相違から施工不能に陥つてゐた鮫川江筋の復活工事はその後工率促進に關し組合側で屢々當局に接衝した結果、この程に至り組合請負の上縣の設計通り施行

平局長が出仙

平郵局長は本十日より十二日迄仙臺遞信局に於いて開かれた一二等局長會議に出席した

教員籠球講習

郡下小學校教員の夏季籠球講習會は野報の如く今日から平第二校グラウンドで石山蒼女教諭コーチの下に開始されたが十五日迄續けられる

平町人事

△梅ヶ香町一七當時横濱市中區磯町六四ノ向島謹一氏(二六)東京市荒川區南千住町八町目五三田中千枝子さん(二三)
△白銀町一三柳原いちさん(七八)
△才植小植!!八本田幸子さん(二二)
△正月町六菅井亥作さん(一四)

四倉から

平第一臨海學校通信
三八月五日には僕等臨海學校の遠足でした。赤ふんどしをかけほつきのおやつをもつて久之濱へ行きました。磯の間をとり洞門をくぐつてはまへに出ました。新しい氣持よい空気を吸ひ波立薬師へ行きました。赤ぬりの橋を渡り、でこぼこな岩をあふなそうに通つてやうやく鳥井のすぐ前に

來ました。そこで十分間休んで久之濱に向つて出發しました。じみじみした砂をふみやうやく久之濱につきました。脱衣場で着物を脱ぎ僕は元氣よく運動して皆と一しよに海についでる川に飛びこみました。水は思つたよりあたたかかつたそこで二十分位泳いでやがて築港に行つた。もう二十人位に向ふ岸に泳ぎついてゐる。僕も元氣をだして泳いだ。何の苦もなく泳ぎ着いた。少し休んでから皆とびこんだ。歸りはくたびれをかりやうやく上つた。間もなく集まつた。おやつにたまどろつふをもらつた。やがて歸る時刻となつた。

赤朝と赤ふんの姿でしかも素足で汽車に乗ることは臨海學校の生徒でなければ出来ないことです。夕食後お話があつた。水竹先生のお話があつて床についた。

實にコッケイでした。午後には黒ん坊大會。一番黒くやけた人が一等で赤く染めた樽に上り、みんなの拍手を受けるのです。さて嚴選の結果、生徒で一番黒いのは六年一組の加納邦武君、黒い顔、大きな眼、白い歯は歯ばかりといふあいさよのよい顔をにこにこさせながら樽の上にとると、一聲にワーツと言ふかんと聲、つづいて拍手、いやはや大

變な人氣です。先生方では橋本先生が一等、赤フンドシに白帽の先生が樽の上にとると又大騒ぎ。ニコニコ顔の橋本先生、愉快になつて両手で音頭をとると、シヤンシヤンシヤンシヤンとまるで野球の應援團の様になつてしまつたので又大笑ひに笑ひました。こんな面白く愉快な臨海學校も明日一日で終ります

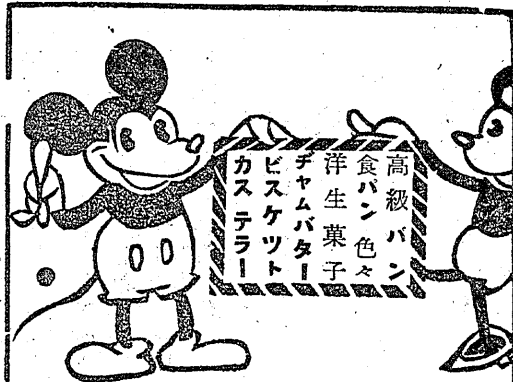
美味...

新鮮...

ベーカリー

東京堂のパン

是非御試食を!
平橋樋小路
電話一〇八番
弟徒入用



婦人科

醫學博士 五十嵐雄二
手術室 完備

平町・新川町一二
五十嵐醫院
電話番號變更
電話三六九番

耳鼻咽喉科専門

鈴木醫院

醫學士 鈴木 正男
平町田町 (電話五八番)
藤田女學校前
自炊のお需めに
入院の便あり

今様石童丸

盲目の少年が 父を尋ねて

十数里の途を徒歩

露知らず

盲目の身に令圖の父を慕つて遙々十数里、一本の杖にすがつて徒歩旅行を續け、やれ嬉しやと思つた間もなぐ訪れる父は既になく遠く仙臺に移送されて見えぬ双眼に涙してさめぬとなく「今様石童丸」一雙葉郡大野村須藤子之吉(三)は齒科醫師法違反で平刑務所に收容され、たが同人の長男幸太郎(六)君は父の收容後母親しなさんと二人で淋しく留守を守つてゐたが近所の賃仕事等をしてゐた母親が最近病氣になつたので子供心の心細さ一圖に遙々盲目の身で十数里の遠路を歩み本十日平刑務所を訪れ父に會はして下さい嘆願したが

ラチオ体操 平町ラチオ体操千人
デオ体操の會は去る一日その後出席者が日毎に増加し頗る好成績を示してゐるが今日の出席者は第一會場兒童一四三六、一般二〇五、計一六四一、第二會場兒童九二二、一般六〇〇、計一五二二、で延人員は第一會場一

他人の山から伐採して
下小川村字上平茂木庄太郎(六)は去月廿三日夜同村中柴三三山林から榎等六本(價格百六十圓)を伐採、豊間村酒井重江に賣却して何喰の顔でゐたこと判明、所有主の根本から九日平署に告訴された

散々毒つく

悪罵のビラに

憤慨して告訴

相手方の正体は不明

赤井村字高萩吉田増尾さん(四)は去月廿三日夜同村郷倉の壁並に村内要所に「吉田は他人の土地を横領した土地泥棒だ、又米泥棒だ」と散々に罵倒したビラの貼られたのに憤慨本十日平署へ相手の正體不明の名譽毀損の告訴状を出したので目

自營會に

百廿五圓寄附

名前を告げぬ四名
去る八日午後二時半頃平刑

明日の話題
今日も明日も南の風曇後一時晴

今晚の部

- 後六〇〇 子供の時間
- お話「東北地方の夏のお祭」石巻中學校教諭 本田安次
- 後六二五 趣味講演「長野」史蹟巡り「史蹟市川谷」栗岩英治
- 後七三〇 趣味講演「能」と歌舞伎「野々村戒三」後八〇〇 涼味通信(第一)
- 三夜「大阪橋くづし」永原(二部大阪市觀光艇水都號より無線中継)安田さくの他
- 後八三〇 詩吟 佐々木孝吾
- 後八四〇 常盛津「節句遊戀の手習」常盛津千歳 木村松太郎
- 後九三〇 時報 ニュー

丑の日當て込の

窃盗發覺して檢舉

警備村大字白鳥農岡野繁治(三)は去月三十日(丑の日)當り、同村白鳥嶺泉旅館春木屋方から鰻三貫目(價格十圓)を窃取湯本町に賣却したことを發覺九日平署に檢舉された

時計屋に賊

犯人の目星付く

湯本町大字湯本字三箇時計商大槻秀雄新へ九日早曉忍び入り金側並にクローム時計合計十個(價格百五十圓)を窃取逃走した賊あるを同日午前六時頃になつて家人が發見、届出に接した平署では草野村大字下神谷山口正男(三)假名を犯人と睨んで手配中

天満宮の宵祭

平町縣社子歙倉神社鎮座天満宮宵祭は明十一日執行されるが餘興として恒例の小學兒童の書畫製作品展や奇術がある

軒並びに二軒

賊忍入る

九日夜十二時頃平町大町雜

明日の話題
象通 報 番組豫告

明日の部

- 前六三〇 速成獨語講座 登張信一郎
- 前七〇〇 朝の修養「ひぐらしすずり」石川謙
- 前七四〇 中等夏期講座「植物」京道信次郎
- 前八〇〇 小學生おさひの時間「算術」矢野大治郎
- 前八四〇 婦人夏期講座「實用習字」山崎光子
- 前九〇〇 家庭講座「手輕なパンの作り方」安原育也
- 後〇〇五 尺八俗曲 村
- 治産懂 俚謡「神迎歌」石川縣能美郡白峰村有志(金澤)
- 後六〇〇 京域より傳説昔話「豆摘み婆さんと虎」崔南善(京城)金澤
- 後六二五 趣味講座 史蹟巡り「宗長法師と柴屋付近」野崎幸雄(静岡)
- 後七三〇 講演「羊毛の代用品に就て」吳祐吉
- 後八〇〇 ラヂオコメディー「こだま」創作座
- 後八三〇 ビアノと管絃
- 後九〇〇 浪花節「巖窟王」早川櫻平
- 後一〇四五 オリズムピク放送(トイソ)

司法標語審査

既報 來る十三日の司法保護宣傳デーに使用する平自營會の標語は應募數約五百に達したがこれが審査は明十一日午後一時から平刑務所内で行ふ由

トラツク轢傷

四倉町四倉合同自動車運轉手遠藤健(三)は昨九日午前八時頃トラツクに養蠶籠七十箇を満載して同町本町地内國道を疾走中突然横合から自轉車に乗つて飛び出した同町蜷川原芳生(三)を刎ね飛ばし右腕に全治三週間の重傷を負はせた

裁判

一東

△既報去月二十七日午後九時頃上小川村大字上小川地内道路で泥酔通行中通りかゝつた同村大橋金好(三)に「乙食野郎」と罵られ又渡四寸餘の匕首を振廻し平署に檢舉された殺人其他前科五犯の強か者岩手縣上閉伊郡

時計
高橋時計店
平町二丁目
小役員募集委細面談。

- 料歩合
- △雑夫 廿才 迄給八圓
 - △出前持 十八才 迄給五圓
 - △職を求るめ方
 - △店員 十八才 高卒
 - △女中 十五才 高一修
 - △職工 十八才 高卒



(著上原)

悟道軒圓玉(作)
尾至陽(書)

一九三 鹽の利かぬ件

土井伊織は高木伊兵衛の根岸の別荘に潜伏して捜索の手のゆるんだのを窺ひ、品川沖に碇泊した幕府の軍艦に身を投ぜむとかう思つたが、負傷して居ることゝ、これが癒えぬうちに歩

行も難儀、伊兵衛の娘お静は伊織の境遇に同情して親切に看護する、とこゝにゐたは伊兵衛の甥の與四郎、これは今年廿五になる血氣の壯漢、しかしちと低能でそれでありながら女の匂ひが大好物、お静は俺の女房になるものと思ひ込み折々いやらしいことをいふ、人間が甘く出来て風采が下劣で色好みと来ては女には縁が遠い、するとこゝの番頭の善助はなか／＼の曲物、與四郎に追従してこれとお静とを夫婦にすれば莫大の資本を引き出すことも出来る、さうなれば獨立の貿易商人になれるとかういふ野心を抱いてゐることゝ、與四郎のためにつくす

善「與四郎さん、あなたはお静さんと御夫婦になつてこの高木のお家を相続する御身でございますな、さうなれば私も今より一層

るであらうが俺の親父は越ヶ谷の名主様で大百姓だ、越ヶ谷は公方様の召上るお米の出来るところで俺の親父の田地で出来にお米を毎年公方様に献上する、武州では越ヶ谷の米が最上としてあり、鹽煎餅などはうまいや、その他に桃の名所での毎年春になると不思議なことに必然桃は花を開く、善「それは不思議とはいひません、春になれば桃はきつと花を開きますよ」

善「それでも桃ばかりでは無いせ實が出来るから不思議で、俺がこゝの主人になれ

てしつかり儲けさせますよ

善「ウム、お前から伯父さん話して一日も早くお静と夫婦になるやうにしておくれ、俺がこゝの主人になれ



ばお前には暖簾を分けてやるせ」

善「それは有難いことでございます、時に與四郎さん

あなたの阿父さんがこゝの

旦那を助けたことがあるさ

うでそれであなたがこゝの

婿になることになつたと聞

きました、旦那を助けた

ことがございましたか」

與「ウム、お前も知つてゐ

議だ」

善「あなたのいふことは面白、ところで與四郎さん

あなたの阿父さんがこゝの

旦那を助けたについて相當

な理屈もございませう、こ

この旦那はどんなことをし

ました」

與「それは、伯父さんは

山氣があるから種々なもの

に手を出し、を

イヤもう乞食のやうになつた、それを俺の親父が資本を出して助けてやつた、それは伯父も利巧だからもとで出来ると天保銭を買ひこんで儲けたとさ」

善「ヘエ！奇態なことを聞きましたな、天保銭を買ひ込んで儲けたかえ、天保銭一枚は百文に通用するこゝろになつてゐましたが人がきらうにいつて値が下りまして一枚八十文の通用、して見れば天保銭を買ひしめれば損をしますよ」

與「ウムさうだ、小判を買つて儲けたとさ」

善「小判と天保銭とは大したもの、小判は金で拵へたもので天保銭は唐金に眞鍮」

與「形が似てゐるから天保銭だと思つた」

善「成程、形は似てゐますな」

與「小判で儲けてそれでうと笑つた

つかり資本が出来たから交易をしてその上にも儲けて今では立派な商人だ、一昨年俺の親父が病らつて段々重くなつた時に伯父を呼んで俺のことを頼んだ、俺もそれを聞いてゐたが我親ながら親父はえらいと思つたよ、その遺言が理屈に合つてゐて俺の事をよく知つてゐる」

善「ヘエ！どんなことを云ひました」

與「さて伊兵衛、我伴ではある與四郎はちと鹽が利かねえ、それで行末が案じられる、何うか頼むといつた俺の事を鹽が利かねえとさうめえことをいふな」

善「ヘエ！あなたは鹽の利かぬといふはどんなことだと思つてお在でなさる」

與「上品だといふことだらう、何うだ親父はえらからうアハハハ……」

夏の御飲み物

- アイスクリーム
- ミルクゼーキ
- ソーダ水 色々
- アツキアイス
- 別味 みつ豆
- 特製 氷あづき

例年通り始めました
ほどよく香のよい宇治名産氷挽茶、御土産に
好適なクリームモナカも御座います。
とても美味しい
「氷 すい か」

魚清食堂

平二番客界通

吸入用酸素

度量 モノサシ
マ ス
ハカリ
器量計 体温計
寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局

電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

和洋家具

椅子 テーブル 子
其他裝飾品一般……
御用命は迅速に御努め致します
製作販賣 諸官衙 御用達
各學校

片寄製作店

平町五丁目四
片寄 小彌太
電話四八四番

夏は！

キヤンプとハイキング
いつもお供は
マイコーカメラ

海も良し!!! 山も良し!!!
これさへあればいつも朗か楽しい旅行
このカメラならどんな素人でもキレイな寫真が直ぐ撮れます。

トウゴウカメラ特約店
MSカメラ
いづみや玩具店
カメラ部